

星降る里から 縄文文化発信事業

取り組みに至る背景・事業の目的

- 八ヶ岳山麓は、かつてペンションブームの先駆けをなしてにぎわったが、近年はその賑いも消えて、地域の活性化を望む声が高まっている。
- 元気あふれる住みよい環境を築くため、往時の賑いをとりもどすために、21世紀の主力産業といわれる観光（文化観光）産業の振興を図り、地域の活性化を進める。
- 特色ある地域文化「縄文文化」を活かした観光地づくりを行うために、縄文文化を広く発信して、文化観光産業の活性化を図り、内外の人の交流を深め、元気あふれる地域づくりを目指す「縄文文化発信事業」を推進する。

事業内容

- ホームページ開設による縄文文化ネットワークの立ち上げ
- 縄文文化を内外に発信するための事業を起動
 - ・縄文土器太鼓づくりと土器野焼き火祭り
 - ・手づくりの縄文土器太鼓による演奏で元気回復
 - ・ドングリ食料理で縄文食の復元
 - ・事業推進母体「縄文阿久友の会」の立ち上げ
 - ・遺跡・史跡・博物館めぐりなど学習講座による縄文文化の伝道者を育成



【 土器野焼き火祭り 】

事業効果

- 縄文文化発信事業の母体となるグループ「縄文阿久友の会」を立ち上げることができた。
- 縄文文化発信事業を広くアピールしていくネットワークづくりとして、ホームページを開設することができたことは最大の効果である。
- 各種事業は、縄文文化を具体的に知る機会となり、地球にやさしい、人にやさしい縄文文化への関心を喚起する効果があった。特に、縄文土器太鼓づくりと演奏は、音楽の持つ大きな力と、全国でもここだけという珍しさから大きな効果があった。ドングリクッキーづくりもおいしさに反響が大きくて、発信事業の良い宣伝になっている。

工夫・苦労した点、課題、今後の取り組みなど

- 滞在型の文化観光を目指すものの、まだその意味・目的、事業内容が参加者に十分理解されていないため、参加希望者は多いが実際の参加はやや少なかった。
- 土器太鼓の皮、縄文食のシカ肉やドングリ料理などの本格的な料理を行う食材の調達、準備等は大きな労力と時間が必要であった。
- 事業推進の会場、特に土器野焼きは事業が拡大すれば適地の確保が課題である。
- 縄文文化の魅力をアピールするためには、より本物に近づけるための材料確保、技術・知識の習得が必要であり、事業を継続していくことが重要である。そのための人材育成への取り組みがより大きな課題である。
- 事業の周知、宣伝が不十分であったので、行政機関との連携、報道機関への情報提供、ホームページのより効果的な活用など、情報発信の取組も課題である。

【選定のポイント】

地域の古代文化を活かした情報発信を行うことにより、観光誘客と地域住民の学習・交流の場になることが期待される。

団体名	(一財) 原村振興公社 八ヶ岳自然文化園 (原村)	事業タイプ	ソフト事業
連絡先	0266-74-2681	事業費	1, 553, 337円
メールアドレス	bunkaen@po19.lcv.ne.jp	支援金額	1, 430, 000円
ホームページ	http://www.yatsugatake-ncp.com/		